

令和7年2月21日発行

第65号

茨城県県央農林事務所
笠間地域農業改良普及センター

TEL (0296) 72-0701

FAX (0296) 72-2718

HPはこちらから→



普及だより



笠間農業士協会 三〇周年記念大会

笠間農業士協会は農業三士の連携による地域の農業振興と後継者育成を目的に、平成六年度に設立され、令和六年度で三〇周年を迎えました。

そこで、三〇周年を記念し、令和六年七月一二日に笠間市地域交流センターともべ「T o m o a」において通常総会と併せて三〇周年記念大会が開催されました。記念大会では元笠間農業士協会会員の永田良夫氏及び深谷一郎氏の二名を講師として招き、永田氏には「私の農業改革 価格決定権を自分に」、深谷氏には「どう経営者として笠間農業士協会と共に歩んだ三〇年」の題目でご講演いただきました。

記念大会には笠間農業士協会会員の他、県及び市町の関係機関、笠間市と城里町の認定農業者及び農業学園生らも参加し、地域のベテラン農業者から新規就農者まで幅広い農業者が集うことで有意義な情報交換の場となりました。

普及センターでは、今後も笠間農業士協会の活動支援及び地域農業者の交流の場の提供を行っていきます。

ドローンを活用した水稲直播 実証試験を行いました

水稲の直播栽培は移植栽培と比べて、育苗や田植え等の労働力が削減でき、省力化に繋がります。一方出芽や苗立ちが不安定であること、雑草害や倒伏が起こりやすいこと等の難しさもあり、管内での取組事例は少ないのが現状です。そこで、今年度は管内の生産者に協力いただき水稲ドローン直播の実証図を設置しました。

品種は「月の光」、種子のコーティング剤は「リゾケアXL」を使用して、五月一五日にドローン直播を行いました。ドローンでの播種時間は10aあたり一分一六秒で、移植作業時間の約3%とかなり省力化できました。そのほか除草剤、追肥散布でドローンを活用したところ、全体の作業時間は慣行移植栽培の四六%と半分以下になりました（ドローンはDJIの「AGRAS T25」）。除草剤は初期剤（播種翌日）と初中期一発剤（移植一六日後）の二回散布で抑草できました。しかし、播種後の鳥害と出穂

期後のカメムシ害により、収量は二七六kg/m²と基準収量より少なくなりました。収量確保のために周囲の「コシヒカリ」と同時に栽培し、鳥害対策の水管理とカメムシの適期防除が必要と考えられました。引き続き省力化技術の安定生産を目指していきます。



ドローン直播の様子

くりほ場におけるドローンを 活用した農薬散布の実施

令和六年八月七日にJA常陸笠間地区栗部会は部会員一〇名のほ場（約五ha）において、ドローンによる農薬散布を行いました。

令和五年にJA全農いばらき・西日本スカイテック株式会社・JA常陸・JA常陸笠間地区栗部会・笠間地域農業改良普及センターが連携し、ドローン散布実証試験を実施しました。その結果から防除方法の一つとして現地に普及できる可能性があると考えられたため、令和六年は各ほ場の園主が費用（農薬代）を負担する形のトライアル事業を実施しました。

当日の天候は良好、ほぼ無風状態であり、早朝から開始した作業は一時までに終了しました。友部地区の二五ほ場で実施し、そのうち最も広いほ場は一三五a（五名の九ほ場が隣接）、散布時間は一〇aあたり約五分と省力的な散布が行われました。

令和七年は、令和六年よりも実施面積を拡大し、より効率的なドローン請負農薬散布を実施する予定です。

普及センターは関係機関と連携し、適切な防除により品質の高い果実を生産するくり経営体を支援していきます。



ドローンによる農薬散布の様子

栄養成分表示について

食品表示基準に規定される栄養成分は、食品表示基準別表第九に掲げられています。そのうち、たんぱく質、脂質、炭水化物及びナトリウムの量及び熱量は、必ず表示しなければなりません。

栄養成分表示は、熱量、たんぱく質、脂質、炭水化物、ナトリウムの順で、ナトリウムについては食塩相当量で表示することとされています。

表示する値は検査機関で計測してもらう他に「日本食品標準成分表」などのデータベースの値を基に計算する方法もあります。

県の「食品表示ガイド」や消費者庁の「食品表示法に基づく栄養成分表示のためのガイドライン」を参考に適切な表示を心掛けましょう。

(例) キュウリの漬物

栄養成分表示 (100g当たり)	
エネルギー	17kcal
たんぱく質	1.0g
脂質	0.1g
炭水化物	3.7g
食塩相当量	2.5g

(推定値)
栄養成分表示例



食品表示ガイド
(茨城県HP)



表示について
(消費者庁HP)

県内で農機具盗難が多発。機械は倉庫へ、鍵は別にして保管しましょう

水稻 育苗時の注意点

水稻は登熟期間の高温で休眠が深くなることがあります。今年も夏季の温度が平年より高く、令和六年産種子で出芽の遅れやばらつきが発生する可能性があります。

浸種時はこまめに種子の状態を確認しながら、浸種水温を一〇〜一五度とし、浸種日数を通常より一日以上多くしてください。特に「にじのきらめき」は「コシヒカリ」より一日以上長く浸種してください。

育苗期間中の急な温度変化により、苗立枯病やもみ枯細菌病が発生しています。ハウス内では温度計を設置し、適切な温度管理を励行しましょう。特にもみ枯細菌病対策として、催芽や出芽、育苗管理は三〇度以下とし、育苗期に高温に遭遇させないことが重要です。イネばか苗病では耐性菌が確認されている薬剤があるため、消毒しても症状が出る場合は普及センターにお問い合わせください。

野菜園場の土づくり ～緑肥の活用～



緑肥や堆肥等の有機物を畑に供給することは、土壌の改善や肥料成分の供給の効果等のメリットがあります。今回は緑肥の効果について紹介します。

【化学性の改善】有機物（緑肥）の腐熟により腐植が増えることや、緑肥作物が肥料成分を取込むことで、土壌中の肥料成分の流亡が減ります。

【物理性の改善】緑肥をすき込むことで団粒構造が促進され、保水性や通気性が改善されます。また、緑肥作物の種類によっては根が深く張るため、土壌の深い部分まで排水性が改善されます。

【生物性の改善】有害線虫の抑制や天敵生物の温存の効果により次作の野菜作の生育改善が図られます。

緑肥についてもっと知りたい方は、普及センターまでご連絡下さい。

くいの冬季の病害虫 防除について



果樹の病害虫防除は、生育期の化学的防除（薬剤による防除）が一般的ですが、冬季の耕種的防除（環境にやさしい病害虫防除技術を用いた防除）も効果があります。

①罹病葉の除去
斑点病等の防除として、翌年の発生源となる落葉を集めて園外へ除去するか、土中深く埋める方法があります。

②整枝・せん定
各種病害虫の防除として、枝が混み合わないよう適切な整枝・せん定を行うことが大切です。その際、罹病枝や病芽をせん除します。

③越冬虫・卵の除去
クリオオアブラムシ、クスサシ、マイマイガ等の防除として、樹幹等の卵塊を、ワイヤーブラシ等ですり潰します。

④表土の耕起
クリミガやクリシギゾウムシの防除として、冬季に表土を耕起し、土中の越冬繭を破壊する方法があります。

⑤天敵の保護
クリタマバチの防除として、チュウゴクオナガコバチ等の天敵を保護するため、せん定枝は五月上旬まで園内に残し、その後速やかに処分します。

県育成小ギク新品種 「常陸サニーハニー」の紹介

茨城県では小ギクの育種に取り組んでおり、今年度新たに「常陸サニーハニー」が育成されました。

「常陸サニーハニー」は花色が黄色で半八重咲きであり、七月中旬頃に開花するため、東京盆向けの出荷に適します。

また、切花長が長く、草姿のボリューム感がある他、白さび病の発生が少ないことが優れた特徴です。

県育成品種の親株販売の受注は毎年一二月から二月に行われます（親株の受渡し時期は一〇月頃になります）。県育成品種の親株購入や品種の特性、栽培に関する問い合わせは普及センターまで。

←常陸サニーハニー



新任・退任農業三士紹介

令和六年七月一〇日、ザ・ヒロサワ・シティ会館において令和六年度茨城県農業経営士等認定式及び令和五年度退任式が開催され、当管内からは農業経営士として生駒祐一郎さん（笠間市）が新たに認定されました。

また、令和五年度をもって、農業経営士の関根道治さん（城里町）、青年農業士の鈴木茂幸さん（笠間市）が退任されました。長い間のご活躍、ありがとうございました。

新農業経営士

生駒 祐一郎 氏

経営類型

普通作（水稻）



新規就農者のための農業講座を開催しました

この講座は新規就農者の定着支援を目的としています。十一月六日の第五回目は、就農支援協議会と合同で開催し、笠間市と城里町の新規就農者六名が参加しました。

本講座では常陸大宮市の菅野農業経営士が経営している「おひさまいちご園」と、有機農業に取り組んでいる「株式会社カモスフィールド（常陸大宮農場）」を訪問しました。

「おひさまいちご園」では栽培へのこだわりや、就農に向けたアドバイスをいただいた後、同園内の研修生にこれまでの経緯や研修を受ける際の心得について話していただきました。

「株式会社カモスフィールド（常陸大宮農場）」では、圃場や土壌改良に使用している菌床などを見学しながら土づくりの手法を学びました。

普及センターでは、新規就農者のための講座を企画しています。興味のある方は普及センターまでご連絡ください。

「中央アグリクラブ」のメンバー募集中!

中央アグリクラブは、笠間市及び城里町の二〇代〜三〇代による若手農業者クラブです。クラブ活動として年に数回県の内外を視察する研修を実施する他、営農の課題解決に向けたプロジェクト活動など行っています。

現在、中央アグリクラブは、一〇名の会員で切磋琢磨しながら楽しく活動しています。クラブ活動は、若手どうしのネットワークを得られるだけでなく、農業について情報交換ができる絶好の機会となっています。常時会員を募集していますので、興味のある若手農業者の方はぜひ、普及センターまでご連絡ください。



笠間地域新規就農者激励会を開催

一月一七日、笠間市地域交流センターともべ「Tomomoe a」において、市町等関係機関が組織する笠間地域就農支援協議会が、新規就農者激励会を開催しました。

第一部は、令和五年度に笠間市、城里町で就農した七名に対し、菊池恵一会長より激励のことばが贈られました。新規就農者を代表して、笠間市在住の鈴木るりかさんから決意のことばが述べられました。

第二部は、いばらき新規就農者ネットワーク大山健一郎会長より「新規参入からのアドバイス」と題し、就農時の体験談や地域で繋がりを作る大切さについてお話しいただきました。

その後、地元の後継者クラブである中央アグリクラブの紹介や、先輩農業者と新規就農者、これから就農する方々との意見交換が活発に行われました。今年で五回目となる激励会では、地域の担い手となる方々を応援していきます。

